

2018（平成30）年度 あんずの家事業報告書

はじめに

基本方針である「利用者さんの主体性が活かされ、ご本人（家族）のニーズが優先されるよう支援する。」に基づき、個人支援計画を作成し、お一人おひとりの自己実現に必要な支援を行った。利用者さんのニーズから「さをり織や音楽などの活動を中心とした利用」と「レクリエーションや健康管理を中心とした利用」の2つのグループに分けることで、利用の目的を達成できるよう努めた。

活動を中心としたグループでは、利用者さんのスキルが発揮できるよう支援し、生産活動で得られた収益を給料として、8月、12月、3月に配分した。さをり織りや音楽活動、芸術活動を通して達成感や充実感、満足感を味わっていただき、明日への意欲へと繋がっており、前向きな気持ちが、健康管理を中心としたグループの利用者さんにも伝わり、施設全体が明るく活気ある雰囲気を創りだしており、あんずの家の魅力となっている。

レクリエーションや健康管理を中心としたグループの利用者さんには、楽しさと心地よさを味わっていただけるよう支援に努め、自己決定のできるカードゲームや、身体の可動域を活かしたボールゲーム等、可能な限り自らの意思と力で参加できるよう支援した。次に、このグループは体温調節が難しい人や状態が急変する人が多いことから、年間を通して行っている足浴は3年を経てきた。その成果として、35℃に満たないことが多かった低体温の方が、36℃を下回ることがほとんどなくなるなど、体温の維持に大きな効果があることが分かり、日頃の積み重ねが大切であることを確認できた。その他、顔色、むくみ、動き、声の調子など数値では表すことができない異変に気づいた際には、家庭や医療との密な連携をとれるよう努めた。

全体の健康管理については、全ての利用者の健康について、日常的なバイタルチェック、月1回の体重測定により注意をはらってきた。こうした数値に基づく管理に加えて、入浴時の皮膚疾患への対応や、裂傷・打撲の発見・治療も行った。また、障害の重度化により医療ケアが必要となった人への支援では、家族には医療ケアについての相談に応じたり、家庭での環境整備に必要な物品の情報提供を行ったりして生活環境の整備を進めた。病院とは退院後の支援の在り方についてカンファレンスを行い、安心して家庭での生活が継続できるよう支援計画の立案につなげた。今後も慢性的な疾病や急な発病に対して、より適切な対応ができるよう、医療と連携する必要性は高くなっており、看護師を中心に専門的な知識の習得に努めるとともに、加齢による身体機能の低下などの異変に気づける健康管理体制を構築していくことが必要である。

職員体制においては、2.0：1の職員配置を行い支援に当たった。年度途中で生活支援員の退職があり後任の募集を行ったが、適切な人材の採用に時間を要し、1か月間ではあったが職員配置を2.5：1に変更しなければならなかった。また、複数配置を基本に考えていた看護師が2か月半の間一人となったが、奮闘努力のおかげで利用者に迷惑をかける事態に至らなかった。今後、人材確保はますます困難となることから、働きやすい環境整備などを図り離職の防止に努めなければならない。

計画していた送迎車の更新については、保護者会からの寄付を受け、トヨタハイエースを8月に整備し、中央コースの送迎に使用している。この他固定資産ではないが、音楽活動で使用している楽器の経年劣化による更新や修理を行っており、今後は計画的に更新を図っていく必要がある。

1 利用者の支援

(1) 日常生活を支える

- ①食事：個々の年齢や咀嚼の状況に応じて、刻み食やミキサー食の提供や、その時々体調による申し出により、おかゆなどの提供も行った。業務委託先の日米クックとは、調理の具合により濃すぎる味付けの際には減塩を求め、利用者の嗜好に合わない献立に対しては提供の中止を申し入れたりして、安全で美味しい昼食の提供に努めた。
- ②排泄：トランスファーや衣服の着脱、後始末、オムツ交換など自分の力ではできないことや、安全のために必要な介護を行い、快適に過ごしていただけるように支援した。
- ③入浴：希望者に週2回を目安に、入浴前にはバイタルチェックを行い、健康状態を確認して実施した。皮膚疾患の発見や、薬の塗布等、家庭と連携をとりながら適切な対応に努めた。
- ④健康管理：年度初めに、緊急時情報カードの書き換えを行い、服薬等の情報を最新のものにし、服薬管理及び救急搬送時への備えを整えた。
また、感染症の予防対策として、登所時の手指消毒、排泄後、昼食前の手洗いと消毒を年間通して行うと同時に、到着後には、血圧、体温、SP02のバイタルチェックを行い体調管理に努めた。この他、体重測定を月1回実施し、体重が大幅に減少している人には、かかりつけ医での検診を勧め、原因の早期発見に努めた。
- ⑤医療的ケア：あんずの家における医療的ケア実施要綱に基づき、胃ろう、喀痰吸引の医療的ケア実施希望者4名に医療的ケアを実施した。実施にあたっては、保護者が家庭において実施されている手順、内容と違いがないよう情報交換を密にした。

(2) 活動を支える

①生産活動【総収入額：1,015,458円／総支出額：1,124,705円】

差引-109,247円 ※生産活動の前期末支払資金残高1,502,143円から支出した。

・さをり織り【売上高：520,258円 原材料費：257,424円 差引262,834円】

平成30年度も市内の施設で共同受注した福山市敬老の日特別記念品制作において、布の提供が主な収入源となった。また、現有スタッフで製品化できる新商品の開発に取り組んだことが、昨年度よりも増収につながった。

・音楽【出演料：180,000円】

年間を通して計7回の演奏活動を行った。6月に開催された御幸でのハートフルコンサートは13年続けての開催となり、町内の方々のご尽力に感謝するとともに、コンサート中盤では健康体操を行っていただき、和やかな雰囲気の良いコンサートになった。

また、暁の星女子中学校2年生に向けての15回目となった今年度は、あんずの家に来てもらうことができた。これまで、医療ケアが必要な人や、重度の人は演奏会に参加していなかったため、実際にふれあってもらえることがなかったことから、あんずの家の利用者さん全員での演奏を聴いてもらえるよう実施した。

この他、みどり丘など6か所でのコンサートを行い、「自分にできることを一生懸命している姿に感動し、自分も頑張っていきたい」「前向きな気持ちで生きているみなさんから元

気をいただいた」「一生懸命に頑張れることの大切さが心に響いた」などの感想が届いた。利用者さんたちの出来ることを活かして自己実現に向かって生きている姿勢を伝えられるよう、これからも取り組んでいきたい。

- ・印刷（カレンダー）【売上高：315,200円 原材料費等：226,800円 差引 88,400円】

目標通り10月中に350部を製作し販売を始めた。利用者、保護者、関係者のご協力により、目標の300部を達成した。

- ・手形アート

平成30年度も6作品を制作しカレンダーの原画とした。また、「あいサポートアート展」や「陽と風と」展に出展した。一昨年のあいサポートアート展で金賞を受賞したウィルス改め「アトム」は昨年度末から県庁正面玄関に展示されており、多くの人にみていただける機会を得ている。

※上記の生産活動にかかわった利用者には、工賃として年間631,095円支給した。

②レクリエーション

- ・利用者さんお一人おひとりが、集団の中で楽しめるようゲームを考案し実施した。その中で参加する喜びや、勝つことの嬉しさを味わっていただけるよう支援した。また、個々の楽しめることにも取り組んでもらおうと、個別の活動も行った。

2. 利用者の状況

(1) 月別利用状況

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	22	22	22	22	22	21	23	22	21	21	20	22	260
基準人数	440	440	440	440	440	440	460	440	420	420	400	440	5200
登録者数	20	20	21	21	21	21	21	21	21	21	22	22	—
延利用者数	369	365	393	396	402	374	400	376	358	336	323	388	4480
利用率	83.8%	82.9%	89.3%	90.0%	91.3%	85.0%	86.9%	85.4%	81.3%	80.0%	80.7%	88.1%	86.1%

※基準人数：4月、5月、6月、7月、8月、11月、2月、3月は基準開所日数を22日、10月の基準開所日数は23日、9月、12月、1月は21日、2月は20日とし、その日数に定員20人を乗じて算出している。

※利用率：延利用者数を基準人数で除して算出している。

平成30年度は、登録利用者20名でのスタートとなったが、6月から1名が利用を開始し、6月、9月から1名が、2月から1名が利用を開始された。退所者はいなかったが、1名が12月から入所施設へ移行し、月2回程度の利用となったことから、実質的には1名減の状況となったが、年間での平均利用率は昨年度より0.7%向上した。しかし、インフルエンザに罹患する人は、これまで年間1～2名だったが、12月から2月にかけて6名が罹患した。また、罹患はしなかったものの発熱が続くなどの理由による欠席のため3か月間の利用率が大幅に低下した。また、2名が2カ月程度の長期入院をされたことも利用率が大きく改善できなかった要因となっている。

(2) 障害程度の状況 (2019年3月31日時点での在籍者数22人)

単位：人

	障害支援区分					身体障害者手帳				療育手帳			
	区分6	区分5	区分4	区分3	区分2	1級	2級	3級	6級	㉠	A	㉡	B
男	10	4	0	2	0	10	3	2	1	3	3	1	2
女	4	1	1	0	0	4	2	0	0	1	1	0	1
計	14	5	1	2	0	14	5	2	1	4	4	1	3

※障害程度区分、身体・療育手帳、いずれの欄も、障害程度は左が最も重い障害となっている。

障害支援区分の更新に際しては、新しい認定項目に基づいてシミュレーションを行い、従来の区分が維持できるよう情報提供を行った。また、区分に応じたサービスの支給量では不足する人の場合においても、上位区分への変更が可能かどうかを確認し手続きを行った。

(3) 年齢別利用者の状況

単位：人

年齢	～20	21～25	26～30	31～35	36～40	41～50	51～60	61～
男	1	1	2	1	5	1	5	1
女	0	1	0	0	1	0	2	0
計	1	2	2	1	6	1	7	1

※ 平均年齢 43.0歳 最年少 20歳 最高齢 66歳

3. 発表の場

《音楽活動》

2018年6月2日(日)	みどり丘ハートフルコンサート	みどり丘小学校
6月7日(日)	御野ハートフルコンサート	御野小学校
6月24日(日)	御幸学区ハートフルコンサート	御幸小学校
9月9日(土)	あいサポートふれあいコンサート	神辺文化会館
10月28日(日)	幕山学区ハートフルコンサート	幕山保育園
11月8日(木)	暁の星中学校あんずの家コンサート	あんずの家
2019年3月9日(土)	とっておきのひなまつりコンサート	リーデンローズ小ホール

《芸術活動》

2018年11月13日(火)～11月18日(日)	陽と風と…展	ふくやま美術館
2018年10月30日(火)～11月4日(日)	あいサポートアート展	広島県立美術館
2018年11月27日(火)～12月2日(日)	あいサポートアート展	ふくやま美術館

4. 販売の場（さをり製品）

2018年9月5日(水)	～9月30日(日)	夢紡ぎ展	とっとギャラリー
2019年1月22日(火)	～1月27日(日)	虹の手織り店	天満屋シティギャラリー
不定期	イベント等での委託販売		トータルライフサポート

5. 交流の場

2018年9月22日(土)	戸手高校吹奏楽部(22名)	あんずの家
2018年12月19日(水)	暁の星女子中学校クリスマス奉仕	あんずの家
2019年3月27日(水)	フクシ・カイゴを回るバスツアー(21名)	あんずの家

6. 年間実施行事

2018年8月10日(金) 8月16日(木)	納涼カラオケ大会	あんずの家
2018年8月18日(土)	夏の味覚を味わう会～そうめん流し～	あんずの家
2018年9月27日(木)	カープ優勝祝賀会	あんずの家
2018年12月21日(木)	冬の味覚を味わう会～焼き芋～	あんずの家
2018年12月22日(金)	クリスマス会	あんずの家
2019年1月5日(金)	初詣	新市天王社

《自衛消防訓練》

実施月日	9月5日(水)・1月7日(月)
------	-----------------

7. 実習受入

介護体験	6人	職場体験(中学生)	3人	実習(特別支援学校)	4人
------	----	-----------	----	------------	----

8. 苦情件数

平成30年度における苦情件数は0件で、施設内での事故も0件であった。